

平成30年度 第1回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年7月5日(木) 午前 9時50分 開会
午前 11時55分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 中会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 芦澤 和彦 ・教育長職務代理者 入月 一巳
・教育委員 四條 勉 ・教育委員 河内 留美 ・教育委員 佐野 保仁
- 4 事務局等の出席者
町長部局 参与 望月哲也 総務課長 小倉弘規
教育委員会事務局
生涯学習課長 木内一哉 学校教育課長 市川 隆 学校教育課主幹 渡辺正樹
- 5 協議事項
(1) 小学校統合準備委員会について
(2) 学校施設長寿命化計画策定について
(2) 中高連携について
(3) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開会 入月一巳教育長職務代理者

お忙しい中お集まりいただきご苦労様です。この総合教育会議は、今年で4年目ということとなります。振り返ってみますと、この会議の意義と言いますか成果は大変大きかったと思います。

本日も重要な案件がありますが、教育と文化の町・南部町をさらに盛り上げるため活発な意見交換をお願いいたします。それでは、只今より平成30年度第1回南部町総合教育会議を開会いたします。

2 町長あいさつ

教育行政の中核である文部科学省で起きた不祥事は、山梨県に関係する人物でもありとても残念なことでした。

さて、本日は平成30年度、第1回の総合教育会議です。入月委員の挨拶にもありましたように、この会議は皆が真摯に意見を交わす、非常に密度の濃いものとなっています。今回は新たなメンバーがお二人加わりましたが、是非忌憚のないご意見をいただきたいと思います。また、それがこの会議の良さとなっているわけですから。

それでは、本日も活発なご意見をいただきますよう、よろしく願いいたします。

3 教育長あいさつ

本日が平成30年度の第1回総合教育会議となります。町長をはじめ教育委員の皆様、

関係者の皆様には大変お世話になります。よろしくお願いいたします。

平成30年度がスタートして3カ月が経過しました。この間、各学校、学校教育課、生涯学習課では様々な行事が目白押しでありました。4月より教育長職を務めることとなったわけですが、各学校や各課の動きが独自のようでありながら、実は教育行政という一つの括り、広がりの中ですべてがネットワークで繋がっていることに気付かされた3カ月であったような気がいたします。こういった繋がりを整理し、しっかりとしたネットワークを構築し、機能させていくことが重要であると思っております。

本日は別紙のとおり、小学校統合準備委員会、学校施設の長寿命化計画策定、先ごろ調印されました中高連携の今後について資料が用意されています。有意義な会議となりますよう、よろしくお願いいたします。本日はご苦勞様です。

4 議事

(1) 小学校統合準備委員会について

(事務局) 資料1は、委嘱式開催通知に同封した事前配付資料で、準備委員会設置要綱と組織図、大まかなスケジュール、両校の学校要覧です。

資料2は、明日開催する委嘱式並びに第1回委員会の資料で、委員名簿とこれまでの経過、統合について寄せられたご意見、準備委員会による協議が求められると予想される事項です。

[資料1・2により委員構成と委嘱式並びに第1回委員会の進め方について説明]

・協議内容の説明は以下のとおり

①経過説明 平成26年の諮問から今日に至る経過を説明する。

②両校の特長 両校の良さを認識することから統合準備作業を始めていただくために、校長や出身者から特長を出していただく。

③今後のスケジュール 準備委員会が検討すべき事項を示した資料を基に説明する。両校を廃校して新たな学校をスタートさせるため、まず校名を決定する必要があり、その決定方法を検討していただく。

(教育長) 説明のとおり、両校閉校して新たな学校をつくるという基本的なことは冒頭の挨拶で確認し、話し合いが後戻りしない形で進めたいと思います。ご意見ご質問をいただきます。

(入月委員) いよいよ統合準備委員会がスタートするわけですが、ここが肝心なところだと思います。統合がうまくいくかどうかは、委員会がどれだけ頑張れるかにかかってくるのではないのでしょうか。先程事務局から両校の良さを洗い出すという説明がありましたが、南部町が目指している「教育大綱」を中心にした学校像があるわけですから、それをもう一つの柱にして両面から検討していくことが必要だと考えます。

いずれにしても「統合して良かった」と言われるよう、後に栄・睦合小学校の統合が控えているわけですから、そこにつながるような会合になっていけば良いと思います。

(佐野委員) 教育長から「後戻りするのではなく、前に進む。」といった発言がありました。2020年に今の富河小学校の校舎を使って新しい学校をスタートすることが既に決まっており、富河地区のほとんどの保護者は受け入れていると思いますが、万沢地区の

保護者の考えも大事にしながら進めていただきたいと思います。南部中学校統合時に「学校が楽しい」と子どもたちが言っていました。今回の統合も小学生の「楽しい、良かったよ」という声を聞くことができれば、どこの保護者も「良かったんだな」と思ってくれるのではないのでしょうか。統合準備委員会が順調に進むことを願っています。(教育長) 良かったと言われるような統合にしていきたいと思います。また、今年の巡回懇談会で説明してきたように小規模校の良さを生かしていきたいとも考えています。そのためには、皆さんに議論していただく部分と、教育委員会がリードしていかなければならない部分を明確に分けながら進めることになると思います。

(四條委員) これまで寄せられた意見の中から私の考えを述べさせていただきます。

(通学) のところで「体力低下防止のため、なるべく歩く区間をとる。」とありますが、体力低下防止のためならば、別角度で学校教育の場で補っていただきたい。長く歩けば危険性が増すわけですから、安全安心面で考えるべきだと思います。

(その他) のところで「地域で遊べる場所・機会の充実」とあります。万沢小学校の建物が閉校後にどのように使われるのか、はっきりしないところですが、本を読む場所の提供をお願いしたいと思います。本のことを意図的に取り上げましたが、これからの教育には心を育てることに注力することが求められます。是非子どもたちが近場で本を読める環境を整備していただきたい。

(学び) につきましては「校舎を建て替え、I Tに力を入れるなど魅力ある学校を。」とあります。確かにそのとおりですが、やはり心の育成の時間を多く確保して充実を図っていただきたいと思います。また「きめ細かな教育という小規模校の良さを生かす。」というご意見がありますが、集団で揉まれることによる心の育成も念頭に話し合ってくださいと思います。さらに「スポーツにおいて小学校から中学校、さらにその先へとつながる仕組みづくり。」「優れたアスリートのお話を聞く。」といったご意見がありますが、才能ある子どもへの支援強化システムは、南部町独自のものをこれからつくっていく必要があるのではないかという感じがします。

(教育長) ありがとうございます。これから準備委員会の中で教育課程検討部会により検討が進められる部分についてもご意見をいただきました。少しずつ詰めていきたいと思っています。

安心安全につきましては、どの学校もしっかり取組まねばならない問題です。また、スクールバスによる通学で放課後の過ごし方が大きく変化することになりますから、地域とのかかわり方を含めて十分な検討が必要な課題となります。

万沢地区から学校が無くなることに関しましては、新たな学校のスタートと同時にコミュニティスクールを導入し、地域の皆さんの声が学校に反映されるような仕組みをつくり上げていきたいと考えています。

(河内委員) 吸収されて統合されるのではないかという不安が拭いきれない保護者がいるのではないのでしょうか。対等の統合だということをうまく伝えながら進めていただきたいと思います。また、N授業などで交流があるわけですが、統合時には子どもたちに戸惑いが生じると思いますので、細やかな心のケアをお願いします。

(教育長) 対等の統合ということは、最初から確認しながら進めます。

(町長) これまで様々な議論がなされて一つの結論に至ったわけですから、基本は後戻りしないということです。町の施策もそうですが、新しいことをやろうとすると必ず抵抗があります。しかし、時間の経過とともに逆に良かったという反応に変化することがままあります。今回の統合もそうなってほしいと思います。

先程、両校の良さを持ち寄って新たな学校をつくるといった意見がありました。もちろん大事なことです、それを前面に出しすぎるとなかなか前に進みません。ですから、できることとできないことをしっかりと委員会の中で決めてほしいと思っています。

将来推計をふまえて町内の小学校は1校にすべきだという意見がありますが、私は、旧町単位に1校ずつの2校体制を堅持します。

昨日N授業を参観しました。子どもたちがとても和気あいあいと授業を受ける姿を見て、統合はうまく行くと確信しました。委員の方々には大変ご苦勞をいただくこととなりますが、その先には楽がありますから、そんな会にしていきたいと思っています。

(教育長) 後戻りはしない、やって良かったと言われる統合にする、これら大筋にあたる部分を大事にして進めて行きたいと思っています。

(教育長) 会議では統合と別の話も出てくると思います。例えば閉校のことなどですが、出された意見は極力尊重したいと考えています。

(佐野委員) 寄せられたご意見の(通学)の中に「自転車通学」とありますが、小学生の自転車通学は「なし」だと思いますので、削除した方が良いでしょう。

(教育長) 寄せられた意見をすべて掲載しています。最終的には削除される結果になるものもあります。

(町長) この会議の開催予定は何回くらいですか。

(事務局) 要綱には、所期の目的を達成するまでとなっていますが、委員の負担が大きくなりすぎてはいけません。校名を議会に提案するまでを一区切りと考え、11月まで月に1回のペースで開催して5回程度を想定しています。その後も検討すべき事項が残りますが、その時の状況で委員構成などを判断していきたいと考えています。

(町長) いつまでに決めなければならないという期限が確定していますから、逆算して取り組むことになるのではないのでしょうか。

(教育長) 項目ごとに期限が設定されることとなります。校歌や校章などは決定時期が統合後になるかもしれません。教育課程検討部会との調整も必要になってくるでしょう。

なお、委員の方々は、お忙しい中お引き受けいただきました。事前に資料をお届けし、会議に出席できなくても意見を前もっていただくことができるシステムとすることをご案内する予定です。

(事務局) 昨年まで町内各区を回って説明した際、140年以上の歴史を重んじ、伝統を尊重する、そうした中で両校の良さを融合して新たな学校をつくっていくイメージを持っていただくようお願いしました。当然、両校閉校となるわけですが、歴史ある学校を閉じるにはそれなりの予算が必要になってきます。それぞれ熱き思いに衝き動かされてのことになるかと思いますが、ご高配を賜りますようお願いいたします。

(教育長) 廃校の活用も併せて意見が出てくると思います。その意見を受けた結果は別として、出された意見は尊重していただきたいと思っています。

様々な意見を想定するわけですが、想定しきれない部分もあると思います。

(町長) 跡地の話は必ず出るでしょう。具体化するかどうかは別として、構想はあります。立派な建物ですから取り壊すことは考えていません。難しい課題ですが有効活用したいと思います。会議の中で良い意見が出ましたら、是非お知らせください。しっかりと検討させていただきます。

(教育長) 提言は受け付けていきたいと思います。私たちがその場で答えられるものとそうでないものがありますので、明確に分けながらお伝えしていきたいと思います。

いよいよ準備委員会が明晩スタートします。ここでいただいたご意見を反映させていきたいと思います。

以上で議事の1を終了させていただきます。

(2) 学校施設長寿命化計画策定について

(事務局) [学校施設長寿命化計画策定が必要となった背景及び本町における事業経過説明]

- ・ 入札 平成30年4月25日 落札業者 (株) 協和コンサルタンツ
落札額 8,800,000円 (税込9,504,000円)
- ・ 委託期間 平成30年4月27日～11月30日

(ただし、富河小学校大規模改修工事基本計画は9月30日まで)

現在、各学校のコア抜き調査を実施しており、その速報値について説明させていただきます。まず圧縮強度試験ですが、値が18以下だと要注意とされ、13.5以下だと長寿命化不可となります。結果は、5小中学校すべてで問題なしでした。次に中性化深さ試験ですが、アルカリ性のコンクリートが中性化することで内部鉄筋の腐食が進行する度合を測るもので、20～30以上の数値が出ると要注意となります。こちらも結果は、5小中学校すべてで問題なしです。ただし、問題ない範囲ですが、万沢小学校体育館の数値が高くなっています。

富河小学校は、統合に伴い大規模改修を計画しており、事業費は概算で2億5000万円を見込んでおります。9ページは国の補助金申請関係資料です。対象面積は2,450㎡、対象経費は2億円が上限となります。次に配分基礎額算定に用いる単価を10ページにより算出します。これは改修範囲の割合により改修比率を算定し単価計算するもので、富小改修単価は70,600円/㎡となりました。この単価に対象面積を乗じて得た配分基礎額は1億7297万円になります。対象経費と配分基礎額の少ない方に算定割合5.5/10を乗じた9513万3千円が交付金算定額となります。仮に満額交付されるとすると以下の式になります。

2億5000万円 - 9513万3千円 = 1億5486万7千円 (町負担額)
町負担額は、過疎債の対象事業ですから地方債を検討していただくよう財政課にお願いしているところです。

最後のページに工程表を添付しました。

事業費の2億5000万円は当初概算額であり、調査検討を経て基本計画が策定された時点で事業費の見直しを行いますが、相当の増額ということもあり得ます。

(教育長) 大きな数字が出ましたが、先に聞いておきたいことがありましたらご質問くださ

い。

(町長) この分野は、総務課長が詳しいので説明してください。

(総務課長) 単位構成比率の部分ですが、防水は全面改修しても3.5%、外装も2.9%で比率とすれば小さいのですが、内装は全面改修となると20.0%でかなり大きな比率になります。現段階では内装の改修割合は50%なので改修比率は10.0%になっています。実施設計に入った段階で改修割合を上げる必要が出た場合、単価計算に対する影響が大きくなるので、改修比率は慎重かつ適正に見込む必要があります。

(事務局) この調査は、概算を見込むためのものだと認識しています。国は全国の要望、計画額に応えられる予算額が確保できておらず、説明どおりの交付金を見込むことはできそうにありません。とは言え、総務課長のおっしゃるとおり、計画は入念に行い、それに伴う積算も見込み誤りが無いよう注意します。

(四條委員) 行政側とすれば公費ですからできるだけ安く済ませたいという考えがあると思います。しかし、30年、50年先にどういう状況になるか考えて補修とかケアをしていく必要もありますので、そういった計画の下で進めていただきたいと思います。

(町長) 場当たり的であってはならないと考えます。ただし、今回は改修工事なので50年先を考える必要はありませんし、大きな状況の変化があるかもしれません。

(四條委員) 検査の結果をふまえ、必要な手当ては多少お金がかかってもやっておくことが大事だと思います。

(事務局) そこがまさしく専門業者に委託した理由であると言えます。委託業者には改修施設の将来計画などを説明しており、それに基づいて改修計画が策定されます。長寿命化計画の目的は、適切な時期に適切な手当てをすることによって低コストで施設を長持ちさせるところにあります。

(参与) 工事期間中の授業対応等は検討されていると思いますが、今のところの見込みを聞かせてください。

(事務局) 現段階では、夏休み等長期休業中に集中して施工する予定ですが、代替え施設の使用は考えていません。万沢小学校利用といった声がありましたが、課題が多く現実的ではありません。仮設校舎の検討も考えられますが、こちらも予算等大きな課題があります。どうしても休業期間外に施工しなければならない場合、空き教室の利用等での対応を考えています。

(教育長) 計画策定が進む中で諸課題をしっかりと把握し、対応策を検討していきたいと思います。

(町長) 現在、保育所の統合が進んでいますが、保育所は工事期間中、閉鎖する方の保育所を使います。

小学校は、両校の児童を合わせてもそれほど大人数にはならないので、万沢小学校利用の可能性を残しても良いのではないのでしょうか。

(生涯学習課長) 旧富河中学校は使えないのでしょうか。

(事務局) 階段等規格が違うので使用できません。

(生涯学習課長) 施工中は安全確保が最も重要視されることを念頭に課題対応を検討すべきだと思います。

(教育長) 限られた期間で仕上げる必要がありますので、しっかりと対策を練って取組んでいきたいと思えます。

(3) 中高連携について

(事務局) [平成21年から今日までの経過報告]

- ・平成21年10月 県立高等学校基本整備構想で中高一貫教育の早期検討の必要性が示される。
- ・平成24年 3月 山梨県高等学校審議会から、当面連携型中心の検討が望ましいとの答申が出る。
- ・平成25年 4月 身延高校、身延中学、南部中学をパイロットスクール候補校として両地教委とともに調査・研究することを決定。
- ・平成26年度～ 連携事業の試行
- ・平成30年5月15日 連携型中高一貫教育の実施に関する協定締結

事業開始年度は平成31年度です。平成26年度から施行してきた12の事業につきまして今年度も引き続き取組み、来年度から本格実施となります。

[12事業]

- ①3校合同研修会 ②中学校への授業アシスト ③高校への授業アシスト ④中学生へのサマーセミナー ⑤中高相互授業参観 ⑥総合学科発表会 ⑦中高合同部活動 ⑧演劇指導 ⑨ライフミュージアム ⑩防災サマーキャンプ ⑪小中高合同清掃活動 ⑫情報発信

資料4は、7月3日に開催された第1回将来構想連絡協議会資料です。議事1は連携型中高一貫教育推進委員会の設置要領についてでした。この組織は協定締結前は推進検討委員会と呼ばれ、県教委の総務課・義務教育課・高校教育課が構成員に入っていましたが、推進委員会ではこの3者がはずれ、3中高・高校改革課・峡南教育事務所・2地教委が構成員となっています。

現場の中学校長から、義務教育課とのつながりが薄くなってしまうと危惧する質問がありましたが、教育事務所がその部分を担い連携で補っていくとの回答でした。また、それに関連して将来構想連絡協議会の教育事務所メンバーが指導主事となっていることに関し、義務教育課につながる学力向上対策監が参画すべきとの意見が出され、教育事務所に持ち帰って検討していただくこととなりました。

その他、今年も一般、保護者を対象に高校改革・特別支援教育課が峡南北部の高校再編と中高連携について説明会を計画しており、南部町では8月28日に活性化センターで開催される予定となっています。

資料の4ページは協定書の写しとなっています。ご覧ください。

(教育長) これまで本事業につきましては、地教委としていくつか要望してきました。一点目は静岡県の高校を含む他高校への進学を考慮して簡便な入試としないこと。これは、県も同様の考えを示しました。二点目は、4km離れると問題があるとされる中高の距離が、現実に10km以上離れており、教員の負担が非常に大きくなっている点について、それに見合った加配をつけること。この加配については今年度0.5配置されまし

た。0.5では受ける人を探すのが容易ではありません。また、きめ細かな指導加配が1.0配置されているのですが、県はこの加配にも中高連携の意味合いが含まれているといったわけのわからない説明をしています。さらに、協定の見直し時期を明記してほしいと要望したのですが、却下されました。

南部中学校には、町負担で教員を配置していただいております、それが中高連携の実現に一役買っているともいえます。今後、どのように取組んでいったらよいのかご意見をいただきたいと思っております。質問でも結構です。

(佐野委員) 授業アシストやサマーセミナーに取り組んでいただいているようですが、それらに対する生徒の声、評価といったものがありましたら紹介してください。

(事務局) 目に見える成果が欲しいという意見が推進検討委員会でも出ました。中高はそれぞれアンケートをとり、成績を分析して資料を作成しました。評価の内容は概ね良好で、効果があるとの結論が出されました。

(町長) そういった積み重ねの結果、身延高校の入学志願状況は好転しましたか。

(事務局) 残念ながらしていません。

(町長) 何年も取組んでいるのに効果が少しも見えてきませんか。

(事務局) 連携の特徴として、中高一貫性を持ったキャリア教育があります。南部町教育委員会は、これを大きな魅力として発信することを要望しています。身延高校は宣伝が不足していると思っております。

(町長) 南部・身延町ともに少子化が進んでいます。絶対数が足りませんから生徒確保は難しいところがあります。

(教育長) 身延高校の存続という意図が見え隠れします。いずれにせよ、身延高校の取組み、戦略がはっきりと見えてきません。中学校への加配も0.5と中途半端です。もっと大胆に加配して大々的に取組むことができないか歯がゆい思いです。

(四條委員) 南部町は優秀な生徒が静岡県に進学してしまうとの指摘を県教委から受けたことがあります。身延高校に理数科が設置された頃です。そもそも南部町の住民は生活圏が静岡県という人が多く、子どもの高校進学も静岡県のほうが都合が良いというケースが多いわけで、そういった方々には身延高校への進学を勧めにくいのが実情でした。しかし、身延高校に理数科コースができたことによって、優秀な生徒が身延高校に進学していますと答えた記憶があります。このやり取りは10数年前のことですから、その頃から身延高校存続の危機感があったのだと思っております。

少子化問題は日本全国で抱える問題ですから、身延高校だけ増やしていこうというのは無理な話で、県も重々承知の上で進めているようです。学力向上だけでは生徒を確保できないので、この連携事業ではそれ以外も重視していると説明を受けたことがあります。実際、そういった内容の取組みがなされているわけですが、キャリア教育といった特色を広めたところで入学割合が減っている南部中学校で入学志願が増えるとは考えにくいのです。身延高校には特色のある取組みについて意欲を持つ先生もいるのですが、連携事業に結びついていません。

対策を講じるのなら、他所でやっていないことをやってみる、全国から生徒を集めるといった考えが必要だと思っております。

(教育長) 生徒が行きたくなるような魅力を発揮しなければならないはずですが、その覚悟が伝わってきません。連携事業だけでなく、身延高校自身の努力が必要です。

(入月委員) 南部町教育を考えたとき、教育支援センターは大きなセールスポイントになります。それと同じイメージで考えたらどうでしょう。連携事業は既に協定締結を済ませてしまいました。しかも山梨県で初めての試みです。南部町としてもスタートせざるを得ないわけですから、進学する生徒数のことは抜きにして、その良さを生かす努力をすべきではないでしょうか。12の事業を南部町としても有効に活用していくことを考えましょう。例えば合同部活動で高校生と一緒に練習すれば中学生にとって非常に効果的だと言えるでしょう。遠距離というデメリットは県に解消を求めていく。そのくらいのことはやっていただかねばなりません。そうやって南部町の子どもたちのメリットになることを増やしていくことが大事ではないでしょうか。

(教育長) 今のご意見を含めて声を届けなければなりません。山梨県初と言いながら加配は0.5という現実も訴えていくことになります。これから何回か会議がありますし、話を聞いていただく機会もあるでしょうから、いただいたご意見をしっかり伝えていきたいと思えます。

(入月委員) まったく宣伝不足だと思います。情報発信しているとのことですが、見たことがありません。

(教育長) 公立校だから思い切ったことができないという人がいますが、何ができるか探っていけばできることはあると思うのです。そういったことも含めて声を上げていきたいと思えます。

(町長) 17日に県教育長に会いますので今の話をいたします。

規模の大きな県ではスポーツ大会で勝ち進むのは大変ですが、山梨県ならそのハードルがぐっと下がります。そのアドバンテージをアピールすることも一つの方法だと思います。入月委員が発言されたように、協定は締結済みなので結果を出すしかありません。

(教育長) 静岡県の高校関係者は生徒獲得のために熱心な営業活動を展開しています。こちらにも求められる姿なのでしょう。

(4) その他

(教育長) 今から2点、口頭で申し上げます。ご理解いただきたいという内容です。

① 安心安全で信頼される学校づくりについて、先に発生した大阪の地震でブロック塀が倒れる事故がありました。それに関し調査があり、危険を伴うものではありませんが、睦合小学校と富河小学校で老朽化が進んだ箇所があると報告しましたら、新聞で報道されました。問題があるわけではありませんので、その後の報道では外されました。

公共施設以外では、通学路に危険箇所は数多くあります。各校、各部署で把握し、対処できるものは対処していきます。

② 県の教育施策に不登校支援のための「やまなみ教室」があります。県の事業廃止に伴い、市町村による共同設置の動きがあります。南部町には既に町単独で教育支援センター内にチャレンジ教室が設置されています。共同設置された場合、そちらの負担

もするという事は考えられませんが、そういった動きがあるということをお知らせいたします。

5 閉会 四條勉委員

お疲れ様でした。昨日、N授業参観後、帰宅して篠井山を眺めながら総合教育会議のことを考えたり道徳教科書に目を通したりしました。去年は区長を務めていたことから、雨が續くと土砂崩落や河川の増水が気にかかり、精神的なゆとりがありませんでした。今年、昨年より落ち着いて子どもたちの様子を見ることができます。昨日のN授業は、道徳でした。授業終盤の発問に対し「平和な世界にするため」という答えが出ました。その場は少し笑いが出て、そのまま通過してしまいましたが、その子の心を捉えていくと平和な世界につながるという思いがありまして、私たちはそういう子どもたちを育てなければいけないと思いました。そこで、今の教育の仕方ですることができるか考えてみました。教育の世界では、教育行政を司る立場の人たちによる不祥事が後を絶ちません。本当に心配なのは、子どもを育てる私たちではないでしょうか。私たちにこそ課題があるのではないか、問題は深刻です。

本日の3つの議題につきましては、常に子どもたちのために、子どもたちの心が育つような配慮がなされて取組まれることを望みます。

私の立場としては、「ハチドリの一滴」といって、私は私にできることをやりますということをお約束いたします。以上です。